

4. 韓国・慶尚北道における海洋深層水開発について考察

○金庸桓¹、朴魯保²、魚再善³

(¹環東海産業研究院、²地域公共政策研究院、³京東大学)

1. はじめに

近年、海洋深層水取水施設を保有している諸国は、海洋深層水を飲食物、水産養殖、農業、健康・医療、ビューティー・レジャー、発電などに活用し、高付加価値産業化が進んでいる。こうしたトレンドに沿って、韓半島の東南部に位置する慶尚北道は、「東海岸圏発展総合計画 2次変更計画(2021-2030)」(法定計画)のビジョンを「持続可能な環東海ブルーパワーベルト」とし、海洋深層水等の海洋資源を利活用した新産業育成を推進戦略としている。慶尚北道は2022年に道議会が策定した「新産業育成のための海洋深層水基本計画構想」に基づき、海洋深層水開発に関する妥当性を検討した。本稿は上記の研究結果を踏まえながら慶尚北道が目指している海洋深層水の開発可能性を取りまとめる。

2. 海洋深層水を巡って慶尚北道の現状

慶尚北道の環東海地域は他の地域と同じく、少子高齢化と人口減少等によって労働生産性が低下し、新たな成長産業の育成・創出に迫られている。とりわけ、海洋深層水を利活用したAI・ICT基盤のスマート養殖(陸上・海面養殖)へと転換している。これまで慶尚北道の海洋深層水開発は鬱陵郡(鬱陵島)に限られており、現在3か所が取水海域に指定されている。しかし、鬱陵郡は陸地から長距離にある離島であるため、物流と関連産業活性化において不利である。慶尚北道は海洋深層水法の制定(2007)を契機に海洋深層水を利活用した産

業振興を目標とし、2008年に「慶尚北道海洋深層水開発可能性調査及び基本計画」を策定した。以降、10年経った2018年に「海洋深層水産業活性化のための基礎研究」を通じて海洋深層水産業政策の基本方向を提示した。2022年には、慶尚北道議会が「新産業育成のための海洋深層水基本計画構想」を策定し、これに基づき「海洋深層水開発の妥当性研究」を行った。研究の核心であるスマート養殖の実現可能性を通じて、環東海地域(蔚珍郡、盈徳郡、浦項市、慶州市、鬱陵郡)を中心に海洋深層水の本格的な開発の政策方向に変化が生じ始めた。

3. 考察のまとめ

海洋深層水取水海域を調査した結果、取水距離は取水管設備と密接な関係があるため、距離が短いほど初期投資の経済的負担が少なくなりフォローアップ管理に有利である。国内における取水距離の最長は江原道襄陽郡・(株)ウォータービスの17.5km、最短は慶尚北道鬱陵郡・鬱陵深層水(株)の1.7kmである。蔚珍から盈徳までの海岸に沿って、浅い起伏の厚浦堆(Hupo Bank)が東西1~16km、南北85kmにわたって広がっている。厚浦堆内海の水深は300m以下であるが、海洋深層水としての基準は満たしている。

最後に、本稿は「海洋深層水開発の妥当性研究」(2022)をメインに参考したことを明らかにする。